

アフターマッチ ファンクション

原案／森健

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校5～6年、中学校1～2年

●ねらい

自分と関わりのある人すべてがかけがえない存在であり、相手がいるから自分もいられることに気づき、その感謝や他者の尊重について、自らの思いの表し方、伝え方などを考えるとともに、実践的な態度を育む。

●取り扱うテーマ・キーワード

思いやり、感謝、公平、公正

教材活用ガイド

●いつ

- ・学校行事（体育祭など）のあと
- ・学期末や年度末など

●指導・活動時間の目安

- ・特別活動・学級活動などで1時間など

●関連

体育・保健体育…勝敗を受け入れる
道徳…「思いやり、感謝」「礼儀」「公平、公正、社会正義」など
特別活動…学級や学校における生活づくりへの参画

●工夫・協力

国語のスピーチの授業と関連させて取り扱う など

段階

学習活動

教材内容と指導上の留意点

※赤丸数字は縮小紙面と対応

導入(7分)

【ウォームアップ】(2分)
アフターマッチファンクションについて知る。

●活動1 (5分)

【1st TRY】自分がみんなの代表として挨拶をするとしたら、どんなことを話すかを考える。

●活動2 (15分)

【2nd TRY】『試合ではこんなことがありました』の4コマの絵と説明文を見て、話し合う。

- ①試合直後の気持ちを想像しながら考える。
②考えたことを、グループ内などで交流する。

※相手(勝った方)のスピーチを考えるグループとに分けるなどして、「プラス1」に取り組むのもよい。

●活動3 (10分)

【3rd TRY】ノーサイドについて知る。
ノーサイドの動画(1分程度)を見てから、各自やグループなどでノーサイドについて調べる。

これまでの自分を振り返るとともに、本時の学習を生かしてこれからできそうなことを考える。

まとめ(13分)

ラグビー教材②
アフターマッチファンクション
アフターマッチファンクション(After-match Function)とは...
1st TRY
試合の前、どんなあいさつをするか、ある程度考えておくことにしました。話すときよいと思うこと、話さなくてもよいと思うことを選んでみましょう。

2nd TRY
試合が終わる、まもなく「アフターマッチファンクション」が始まります。試合ではこんなことがありました。
3コマの絵と説明文を見て話し合う。
①このような結果で試合が終わったとき、どんな気持ちになりますか? 判定や結果について、どのように思いますか?

3rd TRY
ラグビーの文化の一つとして、日本を中心に広まった「ノーサイド」の考え方や振る舞いがあります。どんなことでしょうか。
「ノーサイド」の考え方や振る舞いを読んで、とてもよいと思った事例を挙げてみましょう。どんなところがよいと思ったか、その理由も書いてみましょう。

①これまでにスピーチや代表で挨拶した経験があればそれを思い出したり、試合やコンクールで悔しい思いや満足できなかったときを思い出したりするとよいことを伝える。

②人前で話すことが苦手だったり、経験がなくて考えるのが難しい場合でも、例示を見ながら想像できるようにする。

③特に4コマめの表情や、周りの人の言動などから、試合後の気持ちを読み取るようにする。

④主人公になったつもりで、試合終了直後にはどんな気持ちになりそうかを考えるとよい。

・小学校体育科運動領域の「学びに向かう力、人間性等」では、「勝敗を受け入れる」ことが示されている。中学校保健体育科体育分野では、「勝敗を受け入れる」などのよい取り組みを他者に伝えることが例示されている。

⑤1st TRYで考えたことも踏まえてスピーチを考える。

・この段階では「スピーチできない」という回答も許容する。

⑥他の人のスピーチ案を聞いて、考えが変わったり、自分と異なる考え方に気づいたりしたことをメモする。

⑦インターネットなどを用いて、ノーサイドについて調べる。事例やエピソードなどを探そうにするとよい。

・試合後の場面は、相手を「同じゲームを楽しんだ仲間」として認めている様子であること、相手の健闘を讃えていること(「ノーサイド」はそれを表す言葉)であることに触れる。

・他の人のスピーチ案で参考になったことやノーサイドのエピソードなどもまじえて考えるように促す。

・具体的な場面を想定して、そのようなときには今後どのように振る舞いたいと思うかを考えさせてもよい。